

今日は本年度4回目となる防災訓練でした。まず全員が無事避難できてよかったです。不明者が2人いて、先に避難したみなさんはじっと待つことになりましたが、どんな気持ちで待っていましたか？

1人の命も落とさないこと。命が最優先です。3年生にとっては中学生活、義務教育9年間で最後の避難訓練でした。これまでのまとめの姿として、こうして待っている姿も立派でした。全校のみなさんも立派でした。これからも、いろいろな機会にこうした訓練が行われると思いますが、これまでの訓練、そして、今日の姿をいつも忘れないで取り組んでいってください。

これまでの避難訓練では、「命」を守ることを最優先にすること、そのために「～だろう」という誰でもがもっているバイアス、固定観念を捨てること、日頃から5つの「みる」を大切にすることを話してきました。本年度最後の今日は、それらに加え、これからも大切にしてほしい3つのキーワードをお話します。

忘れてはいけない、およそ12年半前、3月11日に起こった東日本大震災では、多くの命が震災の犠牲となりました。その中で、岩手県釜石市では登校していた全ての小・中学生が全員無事に避難し、さらに、幼稚園児や保育園児からも犠牲者が1人も出ませんでした。このことは、「釜石の奇跡」とも呼ばれています。では、なぜ、あのような震災の中、子どもたちの命は助かったのでしょうか？

それは、釜石市の小中学校の避難訓練を通して日頃から徹底してきた「避難の三原則」によるものでした。では、その「避難の三原則」とは、次の3つのSから始まります。

1つ目の「S」は、「**想定にとられるな**」

2つ目の「S」は、「**最善を尽くせ**」

3つ目の「S」は、「**進んで避難せよ**」

「**避難の三原則**」（群馬大学大学院の片田敏孝教授が提唱）

1 「**想定にとられるな**」

防災マップやハザードマップを信じるな。災害は常に想定外である。絶対に油断するな。

2 「**最善を尽くせ**」

逃げる時は、もうそれで良いということはない。最大限の努力をして逃げ続けよ。

3 「**すすんで避難せよ**」

人に関係なく自ら進んで逃げなさい。大きな声を出して、回りを巻き込みながら逃げなさい。  
年寄りや小さな子どもを巻き込んで逃げなさい。

釜石市の奇跡の主役は中学生でした。中学生が、各自で状況を判断し、進んで全力で避難していく中で、地域のお年寄りや園児などに大声で避難を呼びかけていったそうです。この釜石の奇跡は、こうした中学生の力によって起こったのだと言われています。

では、ここで、この3つのSを、3人の先生方の後ついて言ってみましょう。（全校で大声で復唱）

ぜひ、これからもこの3つのSを常に心に置いて、自分の頭で考え、ひとりひとりの命を大切にするために進んで行動できる、そして、これまで同様、地域の人たちに頼られる高遠中生であり続けてほしいと思います。